

## 第四回全日本高校模擬国連大会

明石康氏基調講演

「国連というチャレンジが若い世代に持つ意味は？」

2010年11月13日

於:国連大学本部エリザベス・ローズ・ホール

(注:講演は英語で行われた)

### 1. はじめに

おはようございます、日本全国からいらした高校生の皆さん、先生方。そして、この大会の開催をサポートしてくださった省庁の方々や企業の方々に対し、私から改めて感謝申し上げます。併せて、高校生レベルの模擬国連活動の発展を心より願っております。

この大会の参加者の2/3が女性であると聞いています。このことは、2ヶ月前の9月に日本・中国・韓国の大学生を招いて開かれた日中韓模擬国連会議と同じ特徴です。しかも、日本・中国・韓国、それぞれの国も2/3の参加者が女性でした。模擬国連を通して示される国連への関心は、男性より女性のほうが高いと言えるでしょう。日本では女性の地位は大半の西洋諸国に比べて高いとは言えないので、この事実を私は良いことだと思います。ですが、日本人の男性にも女性と平等な土俵の上で競い合ってほしいです。

### 2. 日本国憲法と重光外務大臣の国連復帰の演説

今日は、「国連というチャレンジが若い世代に持つ意味は？」というテーマで皆さんにお話をさせていただきます。私は、日本の存在感が世界のみならずアジアでも低下していることを深刻に懸念しています。このことの背景には、若い世代を含む日本人の間に内向き志向が広がっていることがあるのではないかと心配しています。けれども私は、ここにいる高校生の方々には、今日の国際問題に積極的な関心を示していただきたいと思います。

今日、どの国も単体では生き残ることはできません。互いに争い合う代わりに、平和的に、時に情熱的に、しかし常に冷静に理性的に、互いの差異を乗り越えるために対話をすべきです。日本国憲法のことを想起すれば、その前文では、「honor」(名誉)という言葉が一度ならず二度も使われています。一部の人は、「けれど私たちには日本国憲法9条がある。平和と安全にかかわる国連の活動の多くに参加することはできない」と言います。それでも、日本国憲法は平和と安全に関わる国連の活動への積極的、創造的、平和的な参加を禁止していないと思っています。

1933年に満州での行動が非難されて国際連盟を脱退して以来、日本は23年間国際社会から孤立していました。そして日本は、1956年に今日の国際連合に復帰しました。私は、重光外務大臣の国連復帰の演説を国連の会議場で直接聞きました。彼の英語は日本語の訛りのためにあまり流暢なものではありませんでしたが、彼の演説からは日本の国際社会復帰への決意が伝わってきました。私はその演説を聴いて、国連でいずれ働こうと決意しました。

### 3. 国連の実績と現状

国連はすべての国際問題を話し合うところであり、一部は解決され、その多くは未だ解決されていません。問題の中には、何十年もかかるものもあります。これらの問題の解決には、歴史的かつ長期的視点が求められます。国連は、「世界人権宣言」「自由権規約・社会権規約」など、人権分野で長年にわたりゆっくと、しかし具体的かつ着実な成果を挙げてきました。これは、国連の実績のほんの一例です。

国連の扱う問題の主要な分野の一つは、政治的なものです。テレビで見る国連は、ディベート部のように見えるけれども、その裏では差異と紛争を乗り越えるために常にタフな交渉が行われています。政治的なもの以外にも、経済・貧困・環境破壊・エネルギー・食糧・人口問題・感染症なども、国連で話し合われています。数週間前まで生物多様性条約締約国会合が名古屋で開かれていました。そのような、交渉もいずれは国連総会に持ちまれます。ですから、私たちが総会の議論をフォローするのは重要です。国連には、開発、難民、避難民に関する機関もあり、多くのPKOが各国で——その半分以上が、アフリカで——活動しています。日本自身は平和を享受しているけれども、私たちは海外で起きている、貧困や非効率な政府などの問題に対して目を閉じたままではなりません。

### 4. 国連の限界と「保護する責任」

国連は、万能の機関ではありません。加盟国が国連の主人であり、国連は世界政府でも世界連邦でもありません。私たちは、このことを心に留め置いておかないといけません。そのような現状ではありますが、2005年に「保護する責任」という概念を国連は採択しました。その内容は、人間の尊厳と個人の権利を守ることが加盟国の責任であると、はっきりと認めています。そして、政府が人々の権利を守る意思または能力がないとき、国際社会が見解を表明し、時に適切な行動をとる権利を持ちます。このことを踏まえると、国家主権は次第に変化しているし力を失っていると言えるでしょう。

## 5. PKO での経験と若い世代へのメッセージ

国連は、1992 年から 1993 年までカンボジアに PKO を送り、そこに私も参加することが出来ました。世界のメディアの間で悲観的な予測が飛び交っていたのに反して、国連 PKO は平和的・民主的選挙を成功裏に行い、無事新政権を樹立することが出来ました。その後、私は旧ユーゴに派遣されました。そこでは PKO があまり上手くいっていませんでした。その主な理由は、加盟国間の意見の相違、特に安保理常任理事国の間での意見の相違でした。大国が協調出来ないとき、国連の機能は効果的とはなりえません。大国の意見を無視することは出来ません。国連は完璧ではなく、常に強化し、また機能を改善していかないとはいけません。

今日国連への影響力を発揮しているのは加盟国だけでなく増えてきており、個人・私企業・NGO の国連への影響力は高まってきています。今日、あなたがたのような高校生でも NGO を組織して、企業と協力するなどして加盟国の代表に声を届けることができます。あなたがたの持っている影響力を過小評価しないでください。日本は安保理の常任理事国ではないけれども、他にも国連の活動に貢献する方法はあります。例えば、国連の事務局で働くこと、国連機関で働くこと、国際問題に関する世論、特に日本の世論を動かすなどが挙げられます。内向きな衝動も、過剰にナショナリスティックな姿勢も、私たちは乗り越えなければなりません。国連を通じた平和的・民主的な対話を通じて、多くの困難な世界の問題を解決しなければなりません。これからの 2 日間での議論が成功し、かつ実りあるものになることを願っています。また、この大会での挑戦が、将来あなたがたが大学に行ってから、社会に出てあらゆるフィールドで活躍する上で生きることを確信しています。

## 質疑応答

(質問 1) 日本国憲法 9 条は日本の国際社会への貢献を妨げていないとおっしゃっていましたが、軍事行動が禁止されていることを考慮すると、日本の貢献が十分なものになるとは思えません。どのようにして日本は、国連の活動に貢献していくのでしょうか？

(回答) 日本人の中には、日本国憲法 9 条を口実として国連や国際社会の問題に関与しないように、と主張する人がいます。しかし、日本国憲法の前文では明らかに日本の世界平和・民主主義に対するコミットメントを、国際社会の名誉ある地位への約束を、はっきりと謳っています。ですから、このような国連憲章にも謳われているような明白な理想という観点から日本国憲法を解釈すると、憲法 9 条は狭義に解釈してはならず、国連憲章のように平和を実行に移す崇高な理念として捉えられるという結論に達すると思います。

(質問 2)国連でのキャリアの中で、あなたが直面した最も大きな困難はなんですか？

(回答)私は 35 年間国連で働き、国連本部や PKO などキャリアを重ねてきました。輝かしい時もありましたが、厳しい状況に置かれていると感じることもありました。

旧ユーゴではアメリカは、PKO に人員を送っていませんでしたが、「ボスニア兵を空爆せよ」と言い続けました。私は NATO を動かすキーの内の一つを与えられました。二つのキーがあって、一つは私に、もう一つは NATO の司令官に与えられました。彼はアメリカ人で友人でしたが、ワシントンが関わることになると様子が大きく変わりました。アメリカ政府は世論の感情に配慮して、国連に強硬な軍事行動を取るように求めました。

国連のミッションは、人道支援部隊を守ること、停戦を 3 当事者の交渉を通して、継続的なものにするものでした。空爆は、一つの勢力を国連の敵にすることを意味しました。ですから、とても慎重に NATO を動かすキーを扱わなければなりません。アメリカ政府の国連大使は、私と私の行動を批判しました。私は同僚や事務総長に全面的に支持されました。私の行動はアメリカではあまり知られていないけれども、私は、アメリカのためのみではなく国連の加盟国全てのために行動しました。

国際公務員がテレビなどで意見を表明するのは、難しいことです。私の決断は、いろいろな国から来た私の同僚に基礎を置いており、事務総長にも支持されていました。国連の要員が明らかな軍事攻撃を受けている場合なら、NATO の小規模の自衛としての軍事行動を許可しました。そのような状況は 15 回ありましたが、空軍の大規模な軍事作戦には、慎重であり続けました。

とても困難な状況でした。けれど、できるかぎりのことをしたと思います。

(質問 3)日本の若者は、内向きで外国に出ようとしない、とおっしゃっていると思います。日本は他の国々と比べて、社会の設備も整って行って、若者は日本にいて満足してしまっています。若者は次世代の担い手なのですから、社会の厳しい問題のことを考えないといけません。どのようなタイプの人間が、このような問題の解決に貢献できると考えていますか？

(回答)私は、多くの若者に留学に行くことを奨励してきました。世界は複雑で、多様な文化を有しています。日本での生活は確かに私も、快適だと思います。欧米にはウォッシュレットもありませんし。

あなたがたの中には、そのような快適な環境でないと満足できない方もいるでしょう。しかし、私見ですが快適な小さな世界に留まってほしくはありません。

私はスーダンのダルフルで若い日本人女性に会ったことがあります。そこはもちろんとても厳しい状況ですが、彼女は幸せそうで現状に満足していました。もう一つの主要な紛争地域であるコンゴ民主共和国にも、そのような日本人女性がいます。もし NY にいたとしても、あなたは国際政治の巨大な歯車です。しかし、多くの貧困国では、国連が主要な責任を担っていて、NGO が多くの役割を担っています。その私が出逢った日本人女性は、コンゴ川に沈んでいく太陽を見ながら、アフリカに骨をうずめる覚悟を決めたそうです。私は日本での小さな自己満足よりも、平和や人々のより良い生活のために働くことに達成感を覚えるこのような方々にとても感銘を受けました。

日本での生活も面白いかもしれませんが、外にはもっと面白い世界があります。世界のために働くことは、日本の国益にもなります。今日、世界の人々、世界の国々は他の国々と密接につながっていますから。